



昭和3年 若草山麓のバス 1926年式A型フォード
写真提供：奈良交通株式会社



昭和28年 猿沢池の畔を走るボンネットバス
写真提供：奈良交通株式会社



平成28年 奈良市内循環線を走行するハイブリッドバス（奈良公園）
写真提供：奈良交通株式会社

【32】奈良のバスの歴史

奈良県では明治・大正に鉄道各線が開通し、主要駅と後背山間部とを結ぶ交通機関として自動車が発達した。大正6年桜井から当時宇陀・吉野では最大の町であった松山を結んだのが県下最初のバス。

昭和に入りバスは平坦部で路線拡大。当初は人力車との競合があったが、市内にバスを走らせ郊外にも路線を広げた。

昭和18年、県内のバス会社を統合し「奈良交通株式会社」を発足。長距離輸送の展開をし、昭和38年には大仏前・新宮駅を結ぶ特急バス運行開始。現在も残る八木新宮特急バスは日本一長距離長時間路線バス(高速バスを除く)で有名。

奈良県路線バスをほぼ独占し、近畿地区のバス会社で最大手である。